

●藤本氏

普段、自治会活動に関連して、どんなことをされているかっていうのを簡単に教えていただきたい。

●石垣氏

今一番苦勞してるのは、どれだけ自治会の活動が活性化するかということ。どこも同じだと思うが、会がみんな高齢化してしまい、役員の担い手はいない。けれども、自治会がなくなったら困るよというところだけは一致できる。ではどうすれば、うまくいくのかというところに、頭を使ってるってのが一番大きいと思っている。

●藤本氏

自治会活動も、市民協働の 1 つであると考えることができるが、普段されている自治会の活動が“市民協働”であるという意識ってお持ちでしたか。

●石垣氏

全く思っていないでした。

実は江別市基本条例というしおりを見て初めて、知った。ただこれを見て思うのだが、皆さんたくさんの人たちが実は何らかのこういう活動をずっとしてくれている。けれども、それが、ご本人はこういう活動の中の 1 つだというふうに思っていないく、私たち私自身も自治会活動を行う立場にありながら、これを市民協働だというふうに理解をしていませんでした。一生懸命やってる活動をした人たちの活動を表立って自治会として取り込んであげられなかった、その人たちに目を向けてあげられなかったというのが、今私自身が、自治会活動、ここまでやってきて、一番の悔いていること。だから、一生懸命やっている活動を取り込められるようになればいいなと今思っている。

●藤本氏

普段やられている活動の中で、何かやりがいとか、楽しさについて 1 つ教えて欲しい。もし、苦勞されてたり、うまくいっていないというような課題もあれば、お聞きしたい。

●高橋氏

もちろん楽しいことはたくさんある。

私自身福祉の勉強をしたりとか、福祉に関わってきたことって今まで全然なかった。

福祉施設は、とても難しく考えてしまい気軽に行ける場所では到底ないなというイメージがあったが、活動をやっていく中で、子育て世代の方イベント等も、毎月やっている。色々なイベントを通して身近に感じてもらって、気軽に来て楽しんでもらえる場所にだんだんとなってきていることや、地域の方との繋がりを感じられることが、やりがい。

大変だと思うところは、ココルクえべつができた当初は本当にコロナ真っ只中で、イベントができないような状況だったが、そのことを理由に何もしないわけにもいかなかったので、どうやって工夫をしてやっていこうかっていうところがとても大変だった。

●藤本氏

初めてのチャレンジングな取組を行っていると思うが、どういうときに楽しみとか達成感とか面白さを感じているか。

●天井氏

まず自身が楽しいことをやりたいとは言っているけれども、内向的なので、新しいことを取り入れてやるぞという感じではない。本当にやれないことはやれないというのが、法人のメンバーは若手が多く「い

や、やれますとか、できます。」「できないわけがありません。やりましょう」と意欲的なので、基本的にすくい上げてやるという方向で新しいことをやっている。

本当によかったなと思うところが多々ある。例えば、風早夏祭りで言うと、去年は、お祭りが終わった後に指摘の電話が5件ぐらいあったが、今年は何と0件だったのでうまくいった点だと思う。その代わり法人のメンバー宛やホームページ宛にお客様からとてもありがたいメールや電話が、初めて20件以上届いたほか、直接、当日や次の日に行ってもらえたことがとてもやりがいを感じた。

苦労しているところは、若いメンバーが意欲がありすぎ、際限なくやってしまうところがあるので、それを同じ目標まで合わせに行くということ。そのほか、関係者団体の皆様と息を合わせてやっていくが、どうしても皆様忙しいので、合わないときがある。そういうところがお祭りやる上で難しい差を感じた。

●藤本氏

立ち上げた当初と今と比べて、若い人たちとの関わり方や意欲等、何か変化ってありましたか。

●橋本氏

立ち上げた当初は、ボランティア活動として、地域活動と関わる方が多かった感じがあるが、最近は、ボランティア活動というよりは、自分がやりたいことをやっていたらそれがたまたまボランティアと言われてるというような活動で何にハードルが低くなったっている点が特徴かと思う。

●藤本氏

多分、石垣さんも高橋さんも同様だと思うが、自分たちのやってることが、別に市民協働だとか、それから学生が、今回苦労しながらボランティアで動画を作ってくれたことが、そのボランティアなんだっていう、意識しているわけではなく、こういうことで関わりたいとか貢献したいという、取り組みが少しずつ江別で浸透してきているのかなという感じは受ける。

江別の規模感と人の繋がりについて何か感じることはあるか。

●橋本氏

ちょうどいいということはよく聞きますよね。

今日もお知り合いの方やお世話になってる方もたくさんいますが、江別って何か少し頑張ろうとか何かやろうとかって思った人が、すぐに色んなところに繋がれるというところが大きいなと思っている。1人2人辿るとすぐ市長にまで辿り着くとか、議員とも距離が近く、市の職員だからといってハードルがなかったり等、分野を越えた繋がりやすい距離感があると感じている。

●藤本氏

人との繋がりって割と江別の場合、重要なキーワードになるかと思うが、NPO法人とれいすとして、もしくはJC青年会議所も含めて活動をされてきていて、人との繋がりについて、ここ3年5年でどうか。

●天井氏

本当に増えてきてると思う。

橋本さんも、龍田さんも言っていたことだが、呼ばれて札幌でも事業をやることもあるが、江別の人は特に優しいと感じる。この人と繋がりたいって言ったら、繋げるよってしてくれるし、繋がりを増やしてくれる。

●藤本氏

もともとは札幌出身で札幌で育った方が江別の大学を卒業されて、江別で活躍されている方から声を

かけられた縁で活動や仕事をされるようになった高橋さんから見て、江別っていうまちはどんなまちでしょうか。答えにくかったら江別の人たちはどんな人たちっていうことをお聞きしたい。

●高橋氏

先程、天井さんがおっしゃったように、とても優しい方が多いなと思っている。

自分のことじゃないから関係ないじゃなくて、全然違う世代の子たちに対しても、温かく、迎えてくれる。

学生の中から、他人事で知らないみたいな感じではなく、目線を併せて近くで、一緒に自分ごととしてやってくれる大人の人が沢山いるという印象を持っている。

●藤本氏

支えてくれる、伴走してくれる大人の方々から、何か得られた学びやご自身の成長に繋がったことは、ここ何年間かの経験であるか。

●高橋氏

大学生等と関わる機会がとても増え、私が学生のときに、手を差し伸べてくれた橋本さんたちのような大人に、自分もなりたいたいと思っている。

特に大学生の活動に興味を持とうというわけではなく、自然に興味を持って一緒にやりたいし、活動や仕事を通じてどうやったら手助けやサポートができるだろうかという思考になれていると感じている。

●藤本氏

私自身も自分がしっかりしてきているのかどうかは、自分でも実感を持てていない。価値感や嫌な部分は 20 歳ぐらいのときから何も直ってない。ただ、知らず知らず自分よりも若い人たちが増えてきて、何かを繋げたり残せたり、もしくは反面教師も含めヒントになってくれたんだったら、それは自分にとってとても嬉しいと思う。

龍田さんだって橋本さんだって、石垣さんだって、若い人たちから見ると、決してみんな理想的なしっかりした大人じゃなかったかもしれないけれども、次の控えてる若い人たちと繋がることができたら、その人たちにバトンを渡せたりとか、その人たちの参考になるようなことができてたらいいなと思いながら、私も日々、生活したり仕事してます。

高橋さんも自信を持って、自分のやってることを胸を張っていただけたらと思う。

●藤本氏

自治会活動に取り組まれているなかで、何か喜びや達成感、学びみたいなものはあるか。そのほか、仕事を現役でされていたときとは全く関わる人達や内容が、違うと思うが、困りごとの方が多いのか、怒りの方が多いのか。それともちょっとした喜びとか、充実感みたいなものがあるのかについても教えていただきたい。

●石垣氏

自治会の役員として関わるようになってから、ずっと感じている喜びは、自分の自治内を歩いて色々な方々と挨拶できるようになったこと。

困りごとは、常にあるが、なかでも何世代も人が変わってるが、組織そのものが変わらないこと。役員が何年かで変わるから、自分の代が、終われば何とかなるんだろうと思い、次へバトンタッチするが、その結果、何も変わらないでここまで来た。そのことを皆さんはいびつだと言わないが、私は思ったことを口にしてしまうため、いびつならば直せという話になり、そしたらまた自分で抱え込むことになること

がまた難しいと感じている。

時間がかかるだろうと思ってはいるが、次の世代の人に残すために、少しでも修正して次の世代の人に繋げることが私の役目なんだろうなと思っている。

●藤本氏

次の世代につなげるということに関連して担い手の1人である天井さん。

これから何をやっていきたいか、現在の活動を継続していきたいということや、今後に向けて何かできたらいい、こういうことしていきたいということはあるか。

●天井氏

仲間を増やしていきたい。

大学生や高校生の時は、同じ立場だと思うが、社会人となると会社も違うし、結婚していたりしてない等もあり、同じ立場でとなると結構難しいと思う。同じ立場は無理かもしれないが、目標を同じにやっていたら、立場が違ってても、何かはできるんじゃないのかと考えて活動している。その目標を立てたり皆で意思疎通をするのが難しいが、ぜひやってみたいことの1つとしては、来年度雪が明けたら、ごみ拾いを過去最大の人数でやってみたい。この場合は、まちを綺麗にするという目標だけをみんなでもってやればいい。

ぜひごみ拾いをやって、目標を1つに、向かって走るような活動をしていきたいなと思ってます。

会場からのコメント1

今回パネラーの皆さんが大変努力されてるというのは分かった。私は、江別市を超えて、他に幾つか市民活動に参加しているが、江別市を超えての市民活動、特に観光とか、それから産業立地とか都市計画なんかですね、江別に籠りすぎてんじゃないかなと。さらに防災とか、介護とか、こういう分野になりますと、近隣の厚別区とか北広島市との繋がりも重要なわけで、そちらにも参加してみて、もう少し広く考えられるようにしたいなと思っている。

返答：藤本氏

江別市の中での活動や体制が充実してきたら今度は、周辺の市町村との連携とか、ネットワークにつなげていくべきだというご指摘はまさにその通りだと思っている。

例えば、江別市の役割として、大学のない町村、市と協力して、すでに、ジモガクというような活動も進められているし、なかなか人口規模や財政規模の乏しい周辺の町村に、江別市がこれまでやったこと、できたこと、これを伝えたり協力したり一緒に活動していくような仕組みづくりがこれからもっと広がっていけば、とても素敵なことだと感じている。

会場からのコメント2

縦に繋がるというのが大事だということから感じたことが2あった。

天井さんのコメントの中で、龍田先輩という話が出てきたときに、龍田さんがずっと仕込んでいた楽しいっていうのが、同じように伝わっていったのかなと思っていた。楽しんでいれば次の人たちも楽しいんでということが、広がっていくっていうのが縦に落ちてくるのかなと感じたので、とても嬉しく聞いていた。

あとは、高橋さんが言っていた橋本さんとの繋がりから、ずっと活動や仕事が続いているということ

があって、それを今度は私がやる番だと言って縦に繋がりが出てくところにまた繋がりを感じたのが嬉しいと思いながら、今日聞かせてもらいました。ありがとうございました。

返答：高橋氏

人の繋がりについてということに関してですが、橋本さんから、私にというふうに、何かできているのだろうかと考えてしまう。正直まだ、自分がそこまで全然到達はできていないよなと思いつつも、勉強しながらではある。

龍田さんから天井さんへみたいなのところもあったと思うが、何か楽しむことや楽しませることで誰かが犠牲になるみたいなのって絶対におかしいと思っている。自分が楽しむことで、周りも楽しむし、それがどんどん下の世代にもってというのは、本当にそうだなと思っているので、何か自分も、学生等にも楽しさや活動していこうという流れを伝えれていたらとても嬉しい。

橋本氏

もうできているから、大丈夫。

できているし、単なる踏襲じゃなくて、もはや既に超えている。革命を起こしてる感じだと思う。

藤本氏

もう最初のきっかけであった大人の人達なんて、とっとと追いついて追い越していけばいいと思いますし、それができてるというお墨付きを高橋さんはいただいてますが、龍田先輩、後輩の天井一斗さんはちゃんと縦の繋がりで活動されていて、もう龍田先輩を、追い越してますでしょうか。

龍田氏

まだ足元にもおよんでない（笑）彼をまだ、もう門下生として受け入れたこともないんで、彼にはまだ何も教えていないが、独自でやって自分とは違うゾーンでもう自分を確立していつてるので、どんどんやった方がいいと思う。

目ざわりだったら蹴落とせばいいと思うが、僕もそういう若い人たちが、上で煙たがらような存在ではなくて、あの人みたいにやりたいなっていう存在になりたいし、やりたい・やり続けようかなと思うので、お互い切磋琢磨でよろしくお願いします。

天井氏

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします（笑）